

学校評価

● 自己評価

平成26年度 中村国際ホテル専門学校 自己評価表(ホテル学科3年コース・ホテル学科2年コース)

	評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1	課題	今後の改善方策	特記事項	学校関係者評価 (適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1)
教育目標理念	①学校の理念や社会のニーズを踏まえた職業教育を推進しているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4 3 2 1	ホテル業界及びブライダル業界とのコミュニケーションを深め、最新の情報を把握して時代のニーズに合った教育をする必要がある。	年2回程度、ホテル及びブライダルの現場で働いている人々との交流の場を設定し、業界の現状と学校教育に求められるものは何かについて話し合いをしていきたい。	年2回合計16週間の企業実習を必修科目として学生に課し、現場で求められるものを体験させるとともに、成績判定に企業からの評価を反映させている。	4
	②学校の理念・目標・育成人材像等は学生保護者に周知されているか	4 3 2 1				
	③学校の教育目標、育成人材像は各学科に対応する業界のニーズに合っているか	4 3 2 1				
運営計画	①学校の目標等に沿った運営方法が策定されているか	4 3 2 1	(1)校内の情報システムを「学窓21」から「キャンパスマジック」に変更し、切り替え作業を行う必要がある。 (2)ハラスメントに対する対策が確立されていない。	(1)新しい情報システム「キャンパスマジック」の運用の徹底を図る。 (2)ハラスメントに対する規程を早急に作成していきたい。	特になし	4
	②運営方法に沿った運営組織が策定されているか	4 3 2 1				
	③運営組織における意思決定機能は、規則等において明確化され、かつ有効に機能しているか	4 3 2 1				
	④人事、給与・旅費等に関する規程等は整備されているか	4 3 2 1				
	⑤業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4 3 2 1				
	⑥危機管理に関する職員研修及び学生に対する啓蒙活動は行われているか	4 3 2 1				
	⑦教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4 3 2 1				
	⑧情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4 3 2 1				
	⑨個人情報に関して、その保護のための対策が執られているか	4 3 2 1				
教育活動	①教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4 3 2 1	先端的な知識・技能等を修得するための研修や指導力アップのための取り組みがまだ不十分な所がある。  ホテル現場での教員実習を実施したが、今後更にこの研修を拡充させる必要がある。	ホテル学科の教員の中で特に経験年数が浅い教員を中心に、年間の教育活動計画の中に研修期間を組み込んだ。	授業内容が現場の意識と乖離することを防止するために、教員が外部のホテルや旅館に対してのコンサルタント活動を行い、それを授業に反映させている。	4
	②学科のカリキュラムは体系的に編成されているか	4 3 2 1				
	③キャリア教育・実践的な職業教育の視点にたったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4 3 2 1				
	④関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4 3 2 1				
	⑤関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が行われているか	4 3 2 1				
	⑥学生による授業評価を実施しているか	4 3 2 1				
	⑦職業教育に対して外部関係者からの評価を取り入れているか	4 3 2 1				
	⑧成績評価、進級・卒業に関する判定の基準は明確になっているか	4 3 2 1				
	⑨資格取得等に関する指導体制は、カリキュラムの中で体系的に位置づけられているか	4 3 2 1				
	⑩運動会や中村祭(文化祭)等の学校行事は適切に行われているか	4 3 2 1				
	⑪関連分野における業界等との連携において、優れた教員を確保するなどのマネジメントが行われているか	4 3 2 1				
	⑫関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	4 3 2 1				
	⑬職員の資質向上のための研修等は行われているか	4 3 2 1				
学修成果	①就職率の向上に向けて努力をしているか	4 3 2 1	HRS主催の「レストランサービス技能検定」については、指導体制が確立されてなかったため、合格率が低かった		(1)英語系検定を重視し、二次試験(面接)に向けては、英語教員による模擬英語面接を複数回実施して本番に備えている。 (2)資格検定の合格をその難易度に応じてポイント化し、一定以上の資格検定ポイントを取得することを卒業要件のひとつとしている。	4
	②学生が資格取得するための援助を行っているか	4 3 2 1				
	③退学率の低減が図られているか	4 3 2 1				
	④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 3 2 1				
	⑤卒業時に学校に対する満足度を行い、その結果を次年度の教育活動に活かしているか	4 3 2 1				

	評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1	課題	今後の改善方策	特記事項	学校関係者評価 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
学生支援	①就職に関する支援体制は整備されているか	4 3 2 1	経済的に困窮している学生にたいしては、学費の支払いを一定期間猶予する制度はある。しかし、奨学金等金銭的な支援の制度はない。	同窓会組織との連携により、月々の奨学金を貸与する制度の創設に向けて検討する。	本校には年間10回ほど臨床心理士のカウンセラーが来校し、学生の悩みについて相談に乗っている。退学率遞減に寄与している。	3
	②学生相談に関する体制は整備されているか	4 3 2 1				
	③学生に対する経済的な支援体制整備されているか	4 3 2 1				
	④学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4 3 2 1				
	⑤クラブ活動に対する支援体制は整備されているか	4 3 2 1				
	⑥学生の生活環境への支援は行われているか	4 3 2 1				
	⑦保護者と適切に連携しているか	4 3 2 1				
	⑧卒業生への支援体制はあるか	4 3 2 1				
	⑨社会人のニーズを踏まえた教育がなされているか	4 3 2 1				
	⑩高校・高等専修学校等との連携による、キャリア教育・職業教育の取り組みがおこなわれているか	4 3 2 1				
教育環境	①施設・設備は、本校の教育に十分対応出来るように、整備されているか	4 3 2 1	特になし	特になし	教員が各企業と交渉を行った結果、福岡のホテル、プライダル企業においても、学生全員が有償での実習を平成25年度より実施できることとなった。	4
	②インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 3 2 1				
	③防災対策、学生の問題行動、実習中の事故等、危機管理についての体制は整備されているか	4 3 2 1				
受入募集	①学生募集活動は、適正に行われているか	4 3 2 1	訪問した学校へ教育の特徴や就職状況などについては伝えられているが、退学者について退学理由などの情報を伝えられている場合とない場合があり、情報開示が徹底できていないことがあった。	訪問前に担任へ事前に退学理由を確認し、訪問した学校へ適切な情報提供を行っていく。	最近、高等学校主催の進路相談会に招かれることが多くなってきた。	4
	②学生募集活動において、教育成果は訪問した相手校に正確に伝えられているか	4 3 2 1				
	③校納金は普遍妥当なものとなっているか	4 3 2 1				
財務	①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4 3 2 1	特になし	特になし	特になし	4
	②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4 3 2 1				
	③財務について会計監査が適正におこなわれているか	4 3 2 1				
	④財務情報公開の体制整備はできているか	4 3 2 1				
法令等の遵守	①法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4 3 2 1	毎年作成する自己評価表を、今後どのような体制で行うか、各部署を中心として問題点を整理し、検討していく必要がある。	平成25年度の学校自己評価表が作成されたので、年度末には学校全体での総括を行って、来年度に向けての改善点を検討する。	教員及び職員個人の自己評価については、「教職員個人目標」を基にした年2回の面談の中で、問題点を明らかにして、来年度に向けての改善を図っている。	3
	②自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4 3 2 1				
	③自己評価表を公開しているか	4 3 2 1				
地域社会・貢献	①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献をおこなっているか	4 3 2 1	ボランティアに対する学生の意識向上へ向けて、そのための契機となる講演や地域の活動等に参加する機会を学校側が作ること。	NPOやNGO等で活躍する方々との交流できる形の授業をカリキュラムに組み込む。	2002年のワールドカップサッカーでは、大分県中津江村のカメルーンキャンプで3週間に渉るボランティア活動(客室清掃)を実施したが、その後そのような活動が継続できなかった。2020年の東京オリンピックへ向けて、九州でも「おもてなし」ニーズの高まりが予想される。これに対応して、本校の特性を活かしたボランティア活動を再度計画したい。	3
	②学生のボランティア活動を奨励、支援をしているか	4 3 2 1				
	③地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか	4 3 2 1				
国際交流	①留学生の受け入れ・派遣について戦略をもっているか	4 3 2 1	留学生が入学して卒業するまでの在籍管理の一元化を、総務部で行うことが決定した。今後の具体的な作業が必要である。	留学生に対する在籍管理体制の充実に向けて検討を続ける。	日本の文化について関心を持ってもらうため、博多祇園山笠等福岡の伝統行事に留学生を引率することもあった。	3
	②留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等について適切な手続きがなされているか	4 3 2 1				
	③留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4 3 2 1				
	④学習成果が国内外で評価される取り組みをおこなっているか	4 3 2 1				